

多摩市地域自立支援協議会 令和5年度第3回 会議録

日 時	令和5年8月25日（金） 18:30～20:30	場 所	多摩市役所本庁舎 301・302会議室
出席者 （敬称略）	委員 ※敬称略	荒井、市川、植草、大石、折笠、角川、北山、佐藤、瀬尾、登坂、 藤吉、中原、松澤、山田、山本、吉井	
	障害福祉課 （事務局）	平松、平林、仙北屋、上野、今野	
欠席者	委員 ※敬称略	川辺、野路	
記録者	事務局		
項 目	<p>開会</p> <p>1 多摩市障がい者基本計画等について【資料1～6】</p> <p>2 その他</p> <p>閉会</p> <p>○ 配布資料</p> <p>【資料1】委員名簿</p> <p>【資料2】計画の名称について</p> <p>【資料3】計画の構成（案）について</p> <p>【資料4】計画策定に係る事業所アンケート調査の結果（速報値）</p> <p>【資料5】現状と課題</p> <p>【資料6】基本理念・基本方針・施策の展開</p>		
詳細			
開会	～開会～ 【事務局】 配付資料の確認を行った。		
1 多摩市障がい者基本計画等について 【資料2】計画の名称について	事務局より、資料2について説明。 以下、●は委員からの意見 ・多摩市らしさとして、「健幸都市」「安心」「いきいき」などの言葉が入るとよい。		

<p>【資料3】計画の構成 (案)について</p> <p>【資料4】計画策定に係る事業所アンケート調査の結果(速報値)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・名称には大切な部分を入れると良いので、「共生社会」が加えられるとよい。 ・「第●期」では何年から何年の計画であるか分かりづらいので、資料2①、⑦のように計画期間が明記されているとよいのでは。 ・資料2⑨のような、共生という意味合いの言葉が入っていると素敵だと思う。 ・今日はどの辺までまとめておけばいいのか。 <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月3日の協議会までに決められたらと考えている。 <p>・本日の意見をもとに、また各委員で検討いただき、あと2回ほど毎回の議題にするので、ここで計画の名称について詰めていきたいと思う。よろしいか。 (異議なし)</p> <p>事務局より、資料3(第2章-4)について説明。</p> <p>事務局より、資料4について説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回収率が38.5%で、これは課題である。事務局はこれから個別対応でリマインドをかけてくださるということだが、何%ぐらいを目標にしているか。 <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回行ったアンケートは51.1%だったので、今回それ以上を目指して再依頼を掛けたいと考えている。 <p>・今回のアンケート結果を、今後の計画に繋げるためにどのようなまとめ方をしようと</p>
---	---

<p>【資料5】 現状と課題</p>	<p>考えているか。</p> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画の構成としては、アンケート結果を市として現状・課題ということで認識して取りまとめた上で、計画の内容にできる限り反映させていくという意図である。このアンケートでは、「重度化」「高齢化」などキーワードがいろいろ出てきているので、それを拾って行って計画の中身にできるだけ反映させていきたいと考えている。 対応すべき課題はたくさんあるが、何を優先的にやっていくかをもう少し着目すべきではないか。例えば、居宅介護ではニーズはあるもののヘルパー不足が課題としてあげられている。この問題に対処するために、定年や働く年齢の枠を見直すなど、柔軟に検討することも必要である。 全体に対する回収率は提示していただいているが、事業種ごとの回収率を知ることはできるのか。意見集では、児童分野の課題は4～5件だが、まだあるのではないかと感じる。 <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現時点で分野ごとの回収率は出せていない。今後、児童分野からも意見を吸い上げられるように、分野ごとの回答率を気にしながら依頼をかけたいと考えている。 重点課題みたいなのは、どれもすべて大事な問題ばかりだが、そのまま考えてしまうと、具体的に落とし込めず実効力が薄まると考えられる。例えば人的支援でいえば、計画期間中に市として、リタイアした方々をどのように集めるかなどを具体的に落とし込んだ施策を進めることも必要ではないか。もちろん全部大事なことだが、その中でも中心課題としてここをしっかりと狙って、ここだけはしっかりと具体的な仕組みまでつくってやっていくというところが見えるとよい。 <p>事務局より、資料5「現状と課題」について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料5施策1の相談支援の充実を読んで、資料4の計画相談支援の課題を見ると、資料5では〇〇を実施した、△△を進めたと書いてあるが、まだ絶対数が少なく量から質までいっていない。相談支援事業所の数を増やすことが求められているが、絶対数を上げていくための取組がみえないと感じる。
------------------------	--

・私も、相談支援の課題に対する解決策がもう少し必要であると思う。生活相談では、市内のどこの事業所も、人手不足で新規の受け入れが難しいことを課題としている。また、困難ケースについての基幹相談支援事業所を市の障がい福祉課で対応されているようだが、もう少し分かりやすくしていただくと相談支援事業所以外の事業所も相談しやすいのではないか。自治体によっては基幹相談支援事業所をきちんと設けて困難ケースについての相談はそこで受けるというように分けているところもあるそうだ。その辺の充実がもう少しなされるといいと思う。

・〇〇をやった、△△を設置したとあるが、具体的な内容が見えず、達成された成果が分かりづらい。施策2の2つ目、「保健・医療・子育て・教育などの関係機関との連携強化」「アウトリーチによる支援」と書かれても、具体的な内容が見えない。具体的な事例や成果を書く方が理解しやすいと思う。

・文言として、取組の充実、取組を進める、検討、取組とあるが、一体どの取組かというのが本当にわかりにくい。唯一、施策4の書き方は分かりやすい。

・アウトリーチが何件で推移して…など実績の数字を具体的に盛り込むと分かりやすいと思った。地域包括ケアシステム協議会が設置されたのはわかるが、具体的にどういった取組をされているのか、もう少し皆さん知りたいところだと思う。

・私も施策1の相談支援の充実というのが一番重要と感じている。事業所のアンケート移動支援事業の見直しについて、具体的にどのような見直しを行ったのか。

【事務局】

・移動支援事業の見直しについては令和3年度から、これまで精神障がいのある方と知的障がいのある方を対象としていたものを、重度の身体障がいのある方を新たに対象にした。これに伴い、身体介護ありとなしの単価も創設させていただいた。

・資料5の、現状のまとめ方では十分振り返りができていないのではないかと、もう少し細かな数字を入れたほうが良いのではないかとのご意見が多かった。事務局としては、これらの数字を別のところで盛り込むことができるのか、もう少し詳細に記すの

か、その辺はいかがか。

【事務局】

- ご指摘いただいた部分はできる限りわかりやすくできるようにしたい。一方で分量的な問題もあり、前回の計画では大体1～2ページに収めていたため、多少は増やせてもそれぞれ詳細に書くのは難しいことをご了承いただきたい。
- エビデンスベースというところは、毎年の計画評価のあり方も重要だと思うので、ご意見をいただきながら、計画策定後により適切な評価ができるようなかたちで進めたい。

- 資料5について、私なりに解釈したのは、いずれ今つくろうとしている障がい者福祉計画の評価の時期が来る。そのためにこれまでの計画の現状に評価していくものと認識している。そうであれば、資料5は集約されていていいが、ビフォー・アフターの考え方の違いによって評価できないと思う。資料4のところでも話したが、重点的にというのは、例えば資料4でも、当事者の方からのいろいろな集約の中でも、おそらく人に関すること、居宅介護に関することや、生活介護とか短期入所とか、そういう大きな分類の中では小さな分類でどんどん押し込んでいて、その中で課題が資料4のこれから取りまとめてくださる中から生まれてくる、その中に重点的にどれをやった方がいいのか考えた方がいいと思う。

- 人員不足や事業所不足でサービスを使えない人がいる。実際のサービスの利用率を出していただくことはできるか。その利用率が低ければ、そのサービスを欲している人がいるけれど供給が追いついていないということが具体的に出せるのではないか。

【事務局】

- ご質問いただいたデータについては、どのように書くか、市で管理しているデータの形態に関わるため、次回までに可能な範囲でお話しできるように前向きに検討させていただければと思う。

- 足りていないところに重点課題があると思うので、お願いしたい。

- 障害者総合支援法以外の多摩市の支援事業において、ニーズの高さと稼働が釣り合っていない事業があると思う。需要と供給のバランスを見るような取組があったほうが良いかなと思う。

- ・今回の資料の現状と課題に関して、アンケート結果も踏まえた上での課題というかたちで今後ブラッシュアップされるのか、または市の施策に関して、市から見た課題としてまとめていくのか。

【事務局】

- ・今回お示ししているのは平成30年度から令和5年度の計画の振り返りで、委員がおっしゃる内容は資料5の最後「2 現状と課題（まとめ）」で、重要なところを記載するので、またご意見をいただければと思う。

事務局より資料6について説明。

【事務局】

- ・補足だが、施策1から6について、皆様からのご意見も反映させていただく予定だが、市役所の庁内で調査が進行中で、今後追加される可能性もある。次回の協議会でさらに追加したものをお示ししたいと思っている。それを踏まえご意見いただきたい。

- ・就労支援の充実について、令和6年4月から20時間未満の短時間で雇用が始まる。そうした制度を踏まえて多様な働き方の拡大といった記述が入るといいと思う。
- ・ハートフルオフィスを継続されていて素晴らしいと思うが、それと共にその他の働き方、例えば短い時間で働いている方など、ご本人らしい働き方も重要になってくる。
- ・防災対策について、事業所だけではなく当事者ご自身でも学んでいただき、日頃から防災の意識をもったり、また個別のプランを立てるのも良いと思う。当事者ご自身への啓発活動も大事だと思う。

【資料6】
基本理念・基本方針・施策の展開

- ・資料6の基本理念のところで、権利擁護専門部会でも、インクルーシブ教育の推進という文言を入れてほしいと意見を出した。先ほど、「障がい者・児が希望する地域で安心して生活をする」と説明をされたが、特に障がいを持つ方がその記述を目にしたときにわかりづらく、また国連からも勧告を受けているので、多摩市でも今後6年間に向けた大きな方向性を示すことが重要だと思っている。
- ・基本方針1で、「希望する地域で」と書かれているが、個人の権利擁護、ストレスの解消というのは、やはり施設の生活ではできないと私は思っている。「希望する地域で」という文言の前に、細かいことだが「障がい者・児本人が」と入れてほしいと思っている。
- ・基本方針2では、毎日自分らしくいきいきと笑顔で健幸に暮らせることは確かによい

のだが、実際には楽しいことだけではないと実感している。元の文章のほうが良いと思う。

- 基本方針3で、「公的な制度だけによらないサービス」と書いてあるが、「公的な制度に加えて」ではないのか。心のバリアフリーや支え合いを進めるためには、幼い頃からのインクルーシブ教育を推進することが大事なので、基本方針の中にインクルーシブ教育を推進という文言を入れてほしいと思う。

- 皆様の意見で、重点事業というかたちでピックアップできるようなまとめ方もあると感じた。基本方針1、2、3の順序性と、施策1から6の順序性について説明いただきたい。

【事務局】

- 基本方針や施策の順番等に決まりはないと認識している。骨組み自体は国の基本計画と都道府県の基本計画に則して考えている。

- 障害を持つ方が普通学級を希望したら、多摩市ではどうなるのか。学校の中をバリアフリーにしてもらえるか。

- 子どもは学校に行くときに介護者は入れられるか。

- たとえ障害があっても、希望する人は同じ学校・同じ教室で一緒に勉強できるように合理的配慮をする必要がある。そのことを明確に書いてほしい。

- 障害というのは、大人への教育だけでなく、幼児・小学生の小さいときから教育上の体系の中に組み込むことが大事だと思う。インクルーシブという提言もいいが、福祉教育基盤をもっと進めていくべきだ。計画とは別であっても教育委員会と調整したほうが良いのではないか。その辺、私立と公立で差が出ていると思う。

- 基本方針3で心のバリアフリーのところ、**「心」**をつけていただいたことは大事で、インクルーシブの根本的なところだと思う。ただ、文面に入れただけでは埋没してしまうため、できればもう少し文字を大きくするなど、目立たせるほうが良い。「心のバリアフリーあなたも感じてみませんか・考えてみませんか」といった、問いかけるようなフレーズや、聞き流されない工夫があると良いと思う。

- 施策4(2)について、高齢になればなるほど家を貸しにくいという実態があると聞いたことがある。住宅については、障がいを持つ方も年をとって高齢になるので、多摩市のお部屋探しサポート協力店の登録を促すだけでなく、高齢支援課とも連携してほしい。

- ろう者の団体としてみればインクルーシブ教育だけがすべてだとは思わない。地域の学校に通うと先生は声で教えるので、ろう者の人たちは聞くことができず、孤立してしまう。勉強に遅れが出るため、そのときにはサポートが必要になる。インクルーシブ教育が最高に良いとはいえないため、その言葉を入れることに違和感がある。
- 障がい者の人でインクルーシブ教育を受けたいと考える人も多くいると思う。聞こえない人の中にも普通の学校に通いたい人もいるが、一緒に勉強ができない現状もあるので本人の希望が一番大切だと思う。

- 言葉により捉え方が違ってくるところは、計画をつくる際しっかりコンセンサスを得ていく必要がある。

- 施策4（2）の中で市営住宅について何も触れていない。市営住宅は多摩市に何戸あって、障がい者優先制度のようなものがあるのか教えてほしい。

【事務局】

- 現在、市内に3か所（関戸に2か所、落川に1か所）、全部で200戸程度ある。
- 現状は数が少ないため、事情を考慮した募集・入居受付はしておらず、一般的な抽選による募集となっている。

- 先ほどインクルーシブ教育についてご意見があったが、是非インクルーシブ社会というキーワードも入れてほしい。
- 就労支援について、最近はディーセントワークや働きがいのある仕事がキーワードになっているが、障がい者雇用は単調な仕事でやりがいを感じられないという声もある。マッチングが大事になるかもしれないが、市で「働きがい」などはキーワードに入っているのか。

- インクルーシブ教育を文言に入れてしまうのは少し違和感があるとおっしゃっていたのが本当によくわかる。インクルーシブ教育を実現するためには、学級の人数を半減させ、通常学級の先生がインクルーシブ教育のノウハウをすべて学んで把握して、適切に対応できる環境を整える必要がある。いきなりそれをするのは非常に大変であり、理念はよくわかるが現実と乖離している状況もある。インクルーシブ教育、インクルーシブ社会という文言が一人歩きしているような状況があるので、そこはしっかりと議論していくことが大切だと思う。

- 言葉が先行しないように、ということを中心に心掛けて計画をつくっていきたいと思う。
- 地域移行について、病院から入所施設への移行で、グループホームで満足している場合ではないと指摘を受けた。利用者が住みたい地域生活を支援する立場の者として矛盾するようだが、これを進めていくには入所施設の職員としては具体的に身を切る部分もあったりする。
- 地域移行という課題は、おそらく次の報酬改定で減算とか加算とかが付くかもしれないというので、ちょっとビクビクしている。進めていかなければいけないことではあるが、施策の中で地域移行という文言を探してみたら施策2（2）のところで「精神障がいの方を含めた」というような文言から始まっているが、多摩市には入所施設が2つあり、多摩市の大きな課題になってくるかなと思う。地域移行を入所施設の事業所に籍を置いて、そちらで頑張るってねといわれてもなかなか受け皿も確保していないだろうし、経営上の問題にもよるので施設だけでは成し遂げられないものがある。
- この辺りは、市の計画にどれほど大きく載せたいのかということ、そのようなことを載せていくべきだとは思うが、載せ方自体を議論する段階であるため、必要なのではないかと思う。
- 全体的に、担当課と書いてあるが、「障がい児支援体制の整備」の担当課は、子育て支援課と児童青少年課が一部にしか入っていないところに非常に違和感がある。それぞれの場において、子育て支援課と児童青少年課の関わりをもっと深くしてもらいたい。庁内の垣根が外れたり、もっと関心を持って関わってほしいと思う。
- 施策3の（4）「学校卒業後に自立した地域生活を送れるよう」とあるがこの「自立した」という言葉はとても難しいと思う。自立という言葉の概念が難しいため、ここに自立したという言葉を入れるべきなのか悩ましい。ただ、個々の人がその人らしく生きることが重要で、自立したという言葉はなくてもいいと思う。不登校児の内容に、コロナに関連して増えてきている課題でもあるため、そこにもフォーカスしていただきたい。
- 未曾有のコロナ被害や影響を考えたとき、非常事態への備えについての記載があってもいいと思う。
- 施策5（4）で、日本では一般就労をしていないと就労ではないという風潮を感じる中で、B型事業所に通っている利用者が、どこまでそのプライドを保ったり、作業に取り組めるのか。ディーセントワークは一般就労だけでなく、B型事業所で働いている人

にも求められるものではないか。

- プライドを持った働き方、それなりの工賃を稼ぐほうが、その人の生活に結び付くのではないかと感じる。ここは市のほうが、収益の場の提供や、民間事業者への周知・啓発等の取組を通じて支援していくと書いてあるが、是非、置かれている状況なども理解していただき、取組として強化していただければと思う。

- 施策2で、なかなか相談に来られない方でも支援が必要という方がたくさんいて、その方たちをどうすればいいか日頃悩んでいる。現状の課題の中には早期の積極的な働きかけ、アウトリーチが文言としてある。アウトリーチが文言としていいのかということもあるが、その方たちへの支援がなかなか届かず、どうするべきかが課題である。ぜひ計画に盛り込んでいただきたい。

- 計画が主に若い障がい者に焦点が当てられていると思う。その人たちも段々高齢になっていく中で、現在、中高年になってきた方はどうするのか。数年後には約4分の1が高齢者になるため、そのあたりをどうするか考えるべきだ。計画を実行するためには予算が必要だが、介護者やヘルパー不足を補うための予算計上方法についても明確にするべきである。
- 現状を何%まで引き上げるといような、文言よりも数値で示すことが大事だと感じた。具体的な表記方法を考えて、ただ実行する計画を作る姿勢から少しずつ変えていくとよいと思う。

- 本日の議題については、皆さん全体的に活発な意見をいただいた。
- 計画の名称も検討していただけるということで、また次回に向けて様々なアイデアをお願いしたい。
- 事業所アンケートの結果は、更に充実した数字が出てくる。当事者の方たちの調査も出てくるので、それらを受けて、本日の話では言葉が独り歩きしないよう、そしてエビデンスとして実際の数字を持っていく、利用率やニーズ等数字のデータを新たに加えていただき、それをもとに協議会で詰めていきたい。
- 私たち協議会の委員が文字を読んでわからなければそれは市民の方にもわからない。その辺に注意して、皆さんに浸透できる計画に進めていきたいと考えている。

2 その他	<p>事務局から情報提供。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>その他、皆さまから何かあるか。</p> <p>(特になし)</p> <p>～閉会～</p>